

上海・西遊記

上下水道局 小島克生

「俺も連れて行け！」

最近の海外旅行者の組み合わせは、熟年夫婦か、母娘というパターンが多いそうだ。子育てが終わった夫婦、リタイアした熟年夫婦はともかく、母娘というのがいい組み合わせらしい。暇と金のある母親と、語学(?)や情報で助けることができる娘との利害関係が一致しやすいとか。友達同士といっても他人とは違い、母娘なら互いに気遣いのいらぬ関係だし、まとまった休暇の取れない上に、文句ばかりで役に立たない亭主より気楽でいいのだろう。

今まで時々安い海外旅行を夫婦でしてきた我らにも、危機が訪れようとした。妻と娘が海外旅行を計画していたのである。「どうせあなたは忙しいから無理かもしれないが、パスポートが切れる前にまた行きたい」とのこと。こんなこと一度許したら、ますます増長しそうな気配なので、ここは何とか自分の存在をアピールしようとした。「タイミングさえ合えば、俺も行く。以前中国語も勉強した」と(必死に)訴えた。

そこで、正月休み明けの土日と成人の日(月曜日)を使った近場の海外ということで、中国・上海に行くことになった。嫁入り前に、娘と親と一緒に海外旅行ができるのも最後かと思うと、少し感傷的になっていたのは自分だけ。どこに行くか、何をかうか、何を食うかと母娘はわいわいとにぎやか。

「上海は中国ではない！」

H19年1月6日(土)セントレアから一路、上海浦東(プドン)国際空港へ。空港から上海自慢のドイツ製リアモーターカーで市街地へ。最高時速431kmといっても、全長が短いため、ほんの10数秒間だけですぐに減速して、約7分間で浦東地区の中心に到着してしまう。そこは新しく開発されたビジネスエリアで、様々なデザインを競うように超高層のビルが何十本も林立している。「ホテルグランドハイアット上海」が上層階に入っている88階建てビル(450m 現在世界3位)の隣に建設中の上海国際金融センタービルはさらに高く、世界一となる予定とか。玉ねぎを突き刺したようなテレビ塔の「東方明珠塔」の上層階から見た上海市内はまさに絶景。まず眼下に揚子江の支流黄浦江がゆったりと流れ、そこを行きかう貨物船の多さに驚く(地図で見ると、支流といっても海のような揚子江の河口直前に流れ込む運河みたいだが、それでも川幅300mくらい)。



浦東地区の高層ビル群の中には、トムクルーズ主演の映画「Mi 3」で格闘したビルもあった。APEC（エイペック：アジア太平洋経済協力会議）が開催された国際会議場もTV塔のすぐ横にあった。当時の小泉首相はこのTV塔の最上階の小さな「玉ねぎ」のホテルに宿泊したとか。旧市街地方向を見ると、黄浦江沿いに、租界時代の古い石造りの西洋建築群が並ぶ外灘（バンド）地区（TVドラマ『華麗なる一族』で、当時の神戸市内としてロケした地区）、さらにそこにも趣向を凝らした近代的高層ビルがどんどん建設されていた。



街を歩くと、自動車で道路は大混雑。車は右側通行で、右折は信号無視ばかり。交通ルールはあるのだろうか？横断歩道には指導員がところどころにいるが、ほとんど無視。中国は自転車というイメージも吹っ飛んでしまった。自転車もあるが、意外と充電式電動自転車も多い。タクシーはVWのサンタナだが、2010年の上海万博までに全部ベンツに替えるそうだ。



「省エネ意識はあるのか？」

夜は黄浦江を舳先に2頭の金龍がいるギンギラギンの双龍船でナイトクルージング。浦東地区の高層ビルや外灘地区のクラシカルなビル群が、それぞれライトアップされており、その幻想的な夜景はすばらしい。川端のある高層ビルの一棟の壁面上半分が巨大なモニター画面となっており、広告などの動画を流し続けていた。街中に大型液晶モニターがCMを流しっぱなしになっているし、町中ギンギラギンで、省エネ・環境保全意識ゼロか！？電力事情はどうなっているか心配。でも夕食は北京ダックなど中華料理と酒でそんな心配もどこかに飛んでしまった。



「観光より食べ歩き？」

翌日は市内観光だが上海にはたいした観光スポットはなく、「玉仏禅寺」と明の時代の役人が作った庭園「豫園（よえん）」を回った（豫園は名古屋なら港区築地口交差点北東角の中華料理店の名前の方が私的には有名だが）。凝った建物群と池や岩の配置など中国風のセンスは和風とは違うものがある。この豫園の西側に土産物屋や食堂

などがひしめき合っている「豫園商場」がある。旧正月用の飾り物やら、鳩肉の串焼き(中国では公園などに野鳩や野良犬は何故かいないという)、赤や黒色(?)のトウモロコシ焼きなど屋台などぎっしり。



豫園の近くの、上海一行列ができる小籠包の店「南翔饅頭店」(支店はNYと六本木ヒルズにあるとか)で色々な飲茶を楽しむ(日本人観光客は行列には並ばずに3階の個室で)。安くてうまい! 午後のティータイムは中国茶専門店で、片平なぎさ似の中国美人のデモンストレーションと流暢な日本語の販売話術で、しっかり中国茶を買わされた。(このお茶屋さんは、警察官のサボる場所にもなっている)

夜は上海蟹を中心とした上海料理を楽しみ、上海雑技団の公演を観た後、足裏マッサージと忙しかった。雑技団のパフォーマンスは見ごたえのあるものばかりだった。

特に球形の金網の中でバイクが走り回るものは、日本でも木下サーカスなどでもあるが、1台が2台、2台が3台とだんだん増えて、最後に狭い空間を5台のバイクが交差しながら疾走するのには驚いた。地球でたとえれば、赤道をはさんで北緯20度上と南緯20度上を2台ずつ並行して水平に走り、180度遅れて同じように2台が追いかける。それに対してもう1台が北極と南極の経線上を4台の間を縫って走り抜ける。ある程度スピードが無いと落下してしまうのでハラハラドキドキ。どうやって終わりにするのも心配になってしまう。

「日本より高いブランド物!しかもニセモノ?」

食べ物の次は買い物だが、繁華街には有名海外ブランド店が軒を並べているが、日本によく来ている中国人ガイドは「日本より高い。免税店でもニセモノばかり」と忠告してくれた。宿泊したホテルから若者が集うファッションブルな街、「淮海中路」、おしゃれなレストランやブティックが集まる「新天地」などを回ったが、収穫は無かった。上海雑貨で「シノワズリ」(仏語で中国趣味の意)といわれるヨーロッパのテイストの中国らしい上質な手工芸品も、いまひとつだった。西洋人にはいいかもしれないが、同じ東洋人としては少し違うセンスである。上海一の繁華街である「南京東路」には様々なデザインの巨大商業ビルが並び、デパートが競いあっていた。そのすき間にある伝統的な商店に客が群がっているし、一本横道に入れば、いかにも中国の下町といった風景もある。



結婚式場の近くなのか、ウエディングドレスの貸衣装店がずらりと並んでいる通りがあり、軒先の洗濯機で乱暴に洗って、歩道の上に吊って干していた。しわになるからしぼらないのか、

水がぼたぼた歩行者に落ちてもお構いなし。超高層ビル群のすぐ隣で、こんな風景を見るとなんだかホッとする。でも、万博に向けて旧市街地など古い建物がどんどん壊されて、新しい高層ビルが建てられている。

日本でおなじみの店も多い。ケンタッキーフライドチキン、マクドナルド、柿安(日本の「柿安」が関係しているかどうか定かでない)、味千ラーメン(熊本ラーメンの有名チェーン)、無印良品、ピザハットなどはいいが、「UCB?」コーヒーというのがあった。ディズニーランドまがいの遊園地があるような国だから、こんなのかわいい方かな?

「ホテルは一応5つ星?」

宿泊したホテルは「錦江飯店」で、ゴシック調のクラシカルな高層ホテル。1929年建設で、当時は外人用のマンションだったとか。チップは要らないと聞いていたが、荷物を運んできたベルボーイがなかなか帰らない。日本円でもいいというのには参った。(チップの額が五つ星か!?) 建物は古いが、設備は良く、快適だった。水道水は飲めないの、ボトルウォーターが何本も置いてあった(もちろん無料)。

外灘地区に建ち並ぶ古い洋風建築物をひとつずつ見て回った。港町だった頃の外国の金融、商事会社のビルで、特にアールデコ調の「和平飯店北楼」は、そのジャズバーで有名で、平均年齢約75歳という「老年爵士楽団(オールドジャズバンド)」が、古きよき時代を匂わしている。8階の中華料理店で、昼食にしたが、日本でもあるものを頼んで、味を比較してみた。チャーハン、マーボー豆腐、エビチリ、酢豚、中華スープなど、それぞれやはり本場の味で、おいしかった。

「やはり中国はエネルギー!」

08年の北京オリンピック、10年の上海万博と、すごい勢いで疾走している感じの中国に圧倒されっぱなし。特に上海は中国の都市というより、世界の金融センターのひとつになりつつあり、少し前の世界同時株安も上海発だった。日本の「ヒルズ族」のような金持ちがどんどん集まっているし、それを目指す人も集まっている。一方、貧富の差もかなりある格差社会でもある。そのため、儲かれば何をしてもいいという風潮もあり、ルールを守ったり、マナーも悪いところがある(日本も同じか?)。

街角や公共施設には社会主義国独特(?)のスローガンが掲げられている。中国語だが、なんとなく意味は読み取れる。ルールを守ろうとか清潔・美徳のすすめなど、国際化に向けて施設だけでなく、政府は人民も変えようとしている。でも、そんなことお構いなしに、人々はしたたかにエネルギーに生活している。上海の老人達は、朝は太極拳と寺参り、昼間は麻雀、夜は社交ダンスで過ごすとか。老人力も中国はすごい。圧倒されっぱなしの3日間だった。あちこちにしたたかな中国を垣間見ることができた。そんなエネルギーをもらって平成19年が始まった。